

CLUSTERPRO[®] X *for Windows*

PPガイド(ServerProtect Ver.5)

2012.08.10
第01版

CLUSTERPRO

改版履歴

版数	改版日付	内容
1	2012/08/10	PPガイドより分冊し、新規作成

© Copyright NEC Corporation 2008. All rights reserved.

免責事項

本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいしません。

また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。

本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

商標情報

CLUSTERPRO[®] X は日本電気株式会社の登録商標です。

Intel、Pentium、Xeonは、Intel Corporationの登録商標または商標です。

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

Oracle Parallel Serverは米国オラクル社の商標です。

その他のシステム名、社名、製品名等はそれぞれの会社の商標及び登録商標です。

目次

はじめに	i
対象読者と目的	i
適用範囲	i
CLUSTERPRO マニュアル体系	ii
本書の表記規則	iii
最新情報の入手先	iv
第 1 章 ServerProtect Ver.5.....	1
機能概要	1
機能範囲	2
動作環境	2
ライセンス	2
インストール手順	2
注意事項	2

はじめに

対象読者と目的

『CLUSTERPRO® PPガイド』は、クラスタシステムに関して、システムを構築する管理者、およびユーザサポートを行うシステムエンジニア、保守員を対象にしています。

本書では、CLUSTERPRO環境下での動作確認が取れたソフトウェアをご紹介します。ここでご紹介するソフトウェアや設定例は、あくまで参考情報としてご提供するものであり、各ソフトウェアの動作保証をするものではありません。

適用範囲

本書は、以下の製品を対象としています。

CLUSTERPRO X 1.0 for Windows

CLUSTERPRO マニュアル体系

CLUSTERPRO のマニュアルは、以下の 4 つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X スタートアップガイド』(Getting Started Guide)

CLUSTERPRO を使用するユーザを対象読者とし、製品概要、動作環境、アップデート情報、既知の問題などについて記載します。

『CLUSTERPRO X インストール & 設定ガイド』(Install and Configuration Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタ システムの導入を行うシステム エンジニアと、クラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO を使用したクラスタ システム導入から運用開始前までに必須の事項について説明します。実際にクラスタ システムを導入する際の順番に則して、CLUSTERPRO を使用したクラスタ システムの設計方法、CLUSTERPRO のインストールと設定手順、設定後の確認、運用開始前の評価方法について説明します。

『CLUSTERPRO X リファレンス ガイド』(Reference Guide)

管理者、およびCLUSTERPRO を使用したクラスタ システムの導入を行うシステム エンジニアを対象とし、CLUSTERPRO の運用手順、各モジュールの機能説明、メンテナンス関連情報およびトラブルシューティング情報等を記載します。『インストール & 設定ガイド』を補完する役割を持ちます。

『CLUSTERPRO X 統合WebManager 管理者ガイド』(Integrated WebManager Administrator's Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムを CLUSTERPRO 統合WebManager で管理するシステム管理者、および統合WebManager の導入を行うシステムエンジニアを対象読者とし、統合WebManager を使用したクラスタシステム導入時に必須の事項について、実際の手順に則して詳細を説明します。

本書の表記規則

本書では、「注」および「重要」を以下のように表記します。

注: は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

重要: は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

関連情報: は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角かっこ	コマンド名の前後 画面に表示される語 (ダイアログ ボックス、メニューなど) の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックス
コマンドライン中の [] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能であることを示します。	<code>clpstat -s[-h host_name]</code>
モノスペースフォント (courier)	コマンド ライン、関数、パラメータ	<code>clpstat -s</code>
モノスペースフォント 太字 (courier)	ユーザが実際にコマンドプロンプトから入力する値を示します。	以下を入力します。 <code>clpcl -s -a</code>
モノスペースフォント (courier) 斜体	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	<code>clpstat -s [-h host_name]</code>

最新情報の入手先

最新の製品情報については、以下のWebサイトを参照してください。

<http://www.nec.co.jp/clusterpro>

第 1 章 ServerProtect Ver.5

機能概要

ServerProtect Ver.5 は管理コンソール、インフォメーションサーバ(管理サーバ)、一般サーバ(ウイルスチェックサーバ)の3つのプログラムから構成される3層構造により一元管理します。(以降 ServerProtect の記載は一般サーバを表します)

管理コンソール、インフォメーションサーバはクラスタ以外のサーバにインストールする形態を推奨します。

ServerProtect の運用は、クラスタの両系で別々に運用する形態となります。

リアルタイム検索(ウイルスチェック)を設定する事で常に入出力するファイルのウイルスチェックが行われます。

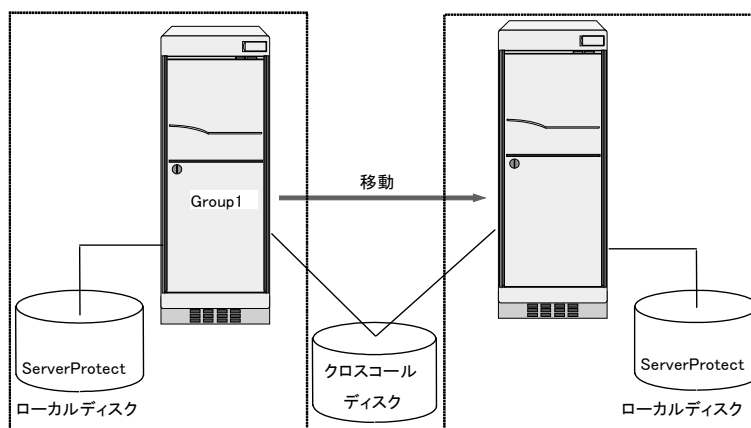
切替パーティションのスケジュールウイルスチェックは、システム担当者が現用/待機両系の動作を考慮して設定します。

運用例: ServerProtect はクラスタ両系のローカルディスクにインストールし、両系でウイルスチェックジョブをスケジュールします。スキャン対象を「全ドライブ」で指定しておけば、ダウン、フェイルオーバー、グループの移動等が発生したとしても、アクセス可能なドライブをスキャンします。

→Server1 がダウン後、フェイルオーバーグループ Group1 が Server2 に移動します。(Server1 の所有だった切替パーティションも Server2 へ移動します。)

その場合、Server2 のスケジュールスキャンで、スキャン対象ドライブを「全ドライブ」として指定していれば、Server2 にて Group1 が起動(*1)した直後のタイミングから、そのドライブも Server2 のスキャン対象となります。

(*1)切替パーティションが活性化された図



機能範囲

ServerProtect(一般サーバ)は両系の独立したサーバでの運用となるため、機能上の制限はありません。

切替パーティションがつながっていない場合、指定された切替パーティションのウイルスチェックタスクは実行されません。ただしスケジュールは正しく更新されます。

動作環境

ServerProtect Ver.5 は管理コンソール、インフォメーションサーバ(管理サーバ)、一般サーバ(ウイルスチェックサーバ)の3つのプログラムから構成されます。

管理コンソールは、Windows Server 2003, Standard Edition/Enterprise Edition/Web Edition、Windows 2000 Professional/Server、Windows NT 4.0、Windows XP Home Edition/Professional、Windows95/98/Me で動作します。

インフィメーションサーバ／一般サーバは、Microsoft Windows Server 2003, Standard Edition/Enterprise Edition/Web Edition、Windows 2000 Server/Advanced Server、Windows NT 4.0/3.51 で動作します。

ただし、CLUSTERPRO X との組み合わせの場合は、Microsoft Windows Server 2003, Standard Edition/Enterprise Edition のみで動作します。

ライセンス

パッケージでの購入の場合は、インストールする一般サーバ数分のパッケージが必要となります。ライセンスで購入される場合には、インストールするサーバに対してアクセスする権利を持っているクライアント PC の台数分のライセンスが必要となります。

インストール手順

ServerProtect(一般サーバ)のインストールはクラスタの両系別々に、ローカルディスクにインストールします。ServerProtect(一般サーバ)のインストール自体は、2 台のサーバにインストールすること以外は通常のインストールと同じです。

管理コンソール、インフォメーションサーバはクラスタ以外のサーバにインストールすることを推奨します。

注意事項

- (1) スケジュール検索や手動検索による切替パーティションのウイルスチェック中にフェイルオーバーグループの移動(停止)を行うと、切替パーティションの切り離しに失敗して、フェイルオーバーが発生します。切替パーティションへのウイルスチェック中には、フェイルオーバーグループの移動は行わないでください。
- (2) クラスタサーバをインフォメーションサーバとする場合はクラスタの両方をインフォメーションサーバとして下さい。インフォメーションサーバがダウンしている状態ではインフォメーションサーバ下の一般サーバを管理(設定変更／パターンファイルの配信)することはできません。

- (3) インフォメーションサーバから一般サーバへのパターンファイル等の配信は、配信タスクが動作しないと、パターンファイル等のモジュールは配信されません。なお、Trend Micro Control Manager(TMCM:トレンドマイクロ社の統合管理ツール)からパターンファイルをインフォメーションサーバへ配信する場合は、TMCM からインフォメーションサーバへパターンファイルが配信された時点で、インフォメーションサーバから一般サーバへパターンファイル等が配信されます。
- ※ 一般サーバやインフォメーションサーバのサービスの起動により、パターンファイルはインフォメーションサーバから一般サーバへ配信されません。